

官房第一五五號

本月十六日
官房
第一五五號
訓令大

大臣
次官

副官

参事官

世三年四月廿五日

發付
記

人事課長

主任課僚

軍務局長

軍事課長

經理局長

相原第一課長

第二課長

要再
發付
記

演習参列諸官、旅費、大演習費支
年ノ儀ト心得ノシ

明治三十三年四月廿六日

海軍大臣

各鎮守府司令長官宛

洋
軍

奏
照

1990

副官



参事官

發付

月 日

三十二年四月十二日起案

軍務局長〇

經理局長〇

人事局長〇

大臣

次官〇

案

本月下旬大演習地親閱ノ為メ演習地方

官房第一五五号ノ二

五 五

本件申

セテラ以

無之然

増額可相

費中申

以之充

所屬ノ各

以之充

前次次

本件申上之要ニ旅費ハ大演習費中ニ豫算
 セラルヲ以テ 經常軍費ヲ以テ支弁スルノ外
 無之然レテ本件ハ大臣特命ナルニ依リ特
 増額可相成費途ニ属ス 雖凡本年之軍事
 費中本件ハ豫算事項外ニ付豫算セラル
 以テ之ニ充ツルキ余額多ク之ヲ以テ出張欠者自
 所屬ノ各廠ニ充ルル本年之配付豫算ヲ
 以テ處弁セシムルハ以テ也

三十二年四月十三日 廣昭費ノ事
 支弁ノ事ト

經理局長

前文次牙中極(追責)到令支弁様段致也

0832

行幸の致仰出候に付、貴官の副友名に從、陪觀
ノ為、兼會之し

三十二年四月十六日

大旨

兵部少輔長

核関少輔長

甚邊路監督有海軍兼謀長

水陸部部長 (副部長一名に)

追、本年三月五日迄、津戸兵庫に廳に來着し衆
組、之に船艇其他ノ件に付、大演習銃並子爵伊東祐
亨ノ已屬に受く、且、本年に要する旅費に本年迄
其廳配付豫算内より支弁方取計へし

官房第五五号之三 抄末

本月下旬大演習御親閱ノ為、大演習地方、

浦 軍

行幸可致仰出候之付之貴官並に左記諸官ノ来
存目ノシ

三十二年四月十六日

六日

各鎮守府司合之長官

進言本月五日迄、沖ノ戸兵庫縣麻ニ来着し衆
組之ヲ船艇其他ノ件ニ付之ハ大演習統共ニ齊任東流
宮ノ區處ニ要スルニシ

左記諸官

格領ノ合

医務部長、兼事務長

副官一名

此格領ノ合

經理部長、首席兼謀

副官一名

目

佐鎮ノ分

牛妻要港部司令官、軍港部長、軍謀長、

副官一名、牛妻要港部副官、

官房第五号の四安

子試之運支之及訓令條文音及運條也

三年四月十六日 六月

大演習張監

身

軍務局



右通他部別名ニ通知致置、

即以前書、廿五改メ方ノ義ヲ存キ馬
中載テ亦之太以、馬通電、意義ハ馬
此ノ書、明文以外、於ニ滿洲部及
電陸部節ヲ通宣リ、此書及
義ニ之ヲ、即此不盡ヲ改テ、義ニ之
之ヲトテ、承知ス、ト、以、候、中、此、

四月二十六日

橋内秘書友

海軍次官殿

母

111

陸軍大臣御施行ノ旨ニ奉答

至急

4890

副官

寺垣

参事官

發付

四月廿六

三十三年四月廿六日起案

軍務局長 赴

軍務課長

主任課僚

大臣

次官

濟

人事課長

代

主任課僚

經理局長

相原

第二課長

指令按

其府事務ノ都合ニ依リ貴官代理トシテ有馬

第一五一五號

海軍

司令官ヲ大演習ニ參會セシムル件認可ス
明治三十三年四月廿六日

按電報

横須賀鎮守府司令長官事務ノ都合ニ依リ
同官代理トシテ有馬司令官ヲ大演習ニ參會
セシムル件認可セリ此旨御通牒ニ及フ

明治三十三年四月廿六日 大臣

大演習統監
宛

6880

受信人

おもとカイシダイシ

至急

発信人

横濱司屋長右衛門

局 着 局 發

日 月 年
 印 用 日
 受 取 者 信
 七 時
 分 字 分 日 號
 第 七
 局 發
 ヨ コ ス カ
 局 報
 至 急 友

日本 政府 電報 送達 紙
 着 第 十 八
 號
 定 指
 ウ ナ 至 急
 事 記

ホン カン ハ ホン
 ノ ツ ゴ ウ ニ ヨ リ
 シ イ カ ン フ ァ ー
 エ ン シ ウ ハ ダ イ
 カ イ セ ミ ヲ ヲ ゴ
 カ ヲ ア フ グ ハ
 本 官 本 府 事 務 部 倉 庫 有 馬

司 屋 官 ス レ テ 大 海 習 へ 代 理 考 査 セ シ メ
 夕 し 即 湯 可 マ 申 シ
 四 月 十 五 日

(行 印 同 例)

（中略）

下り山内山可別有羊一其夜其病入

下之信留地一越々難之就引入其元

由之（本）七尾来し其有馬久情之代理

第也よみかた又之様一有馬久情下價

留地之引張り其元其有馬久情ト協議

下り後下其元其有馬久情ト協議

可近傳可之気

其元之日令其元一信留地之越々

此夜其元其元

其元其元

其元

副官

参事官

發付

月 日

三十三年四月三日 起案

大臣 次官

警察局長

軍事部長

經理局長

主任課長

人事局長

第一課長

主任課僚



本月下旬大演習有關係

為演習地方

印裁

母 官

0890

Handwritten notes and stamps at the bottom left.



Handwritten text at the bottom center.

Handwritten text at the bottom right.

本件、要

本月下旬大隈内閣為演習地方

仰裁

副官

参事官

發付

月 日

三十三年四月之日起案

大臣 次官

軍務局長

軍事課長

經理局長

主任課長

人事局長

第一課長

主任課僚

第二課長

第三課長

0890

大隈内閣

軍務局長

軍事課長

本件

8690

570

中世末葉の源氏及平家物語也

二十五年四月廿七日

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

野田

野田

本件、要る旅費、大演習費中、豫集
^{セシ}ルヲ以テ本省費ヲ以テ支辨ス、外無之然
之ヲ為、特増額不相成、豫集モ亦無
^レテ出張費各自所屬ノ各局ニ於テ
本年度配付豫算内ヲ以テ處分ス
外ニモ也

三十三年四月三十一

野田長
相

0894

行幸被^可仰出候。其左記ノ諸職員事務ノ都合ニ陪觀、右ノ各層段ノ可成候。此係仰高裁候也。

一 軍務局長、軍務局長及軍務課

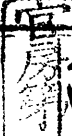




徳武石

一 醫務局長

一 經理局長

一 人事課長

三

<p>  明治三十二年 五月 三十一日 新橋博覧場 御祭壇 案 </p>	<p> 大臣 次官  参事官  主任  </p>	<p> 副官  参事官 發行 以 廿 日 </p>
--	---	---

三十二年六月五日起案

洋 宣

アラセウシ儀ハ其高貴友ノ向ニ夫ニ親シク奉送ノ事
ニ相成ル儀也其向ノ成ル各月同ク奉送ノ事
奉集奉送スルヨリ中相成ル儀也

三十三日四月廿五日 友

在東京各所也

一ノ所也其向ノ事

這ニ服装ハ軍服ノ事

武官 文官ハ通常服

0660

三十三丁 田子 田子 田子 田子 田子
ア 今 今 今 今 今

西 西 西 西 西
ア ア ア ア ア
ア ア ア ア ア
ア ア ア ア ア

0669

至急

本參謀部參日第四四九號第一

海軍大演習、行幸二月大山長嶽
延長供奉被仰付候事、適川真
トシヲ、三島出張候間、承知之
旨、及出通、課候也

明治三十三年四月廿五日

本謀本部副官 城田文次郎

海軍省副官 寺垣精三郎

陸軍省中佐 石井半太

8060

大心卷傳記長卷
田昌行
一
名

參 訂 本 附

0504



副官



参事官

年 月 日 起 案

發付日
四月廿五日

大臣 / 次官



人事課



主任課長



禁

明治三十五年六月廿七日
東京
五月廿七日

母 軍

洋 宣

汽車軍用一号庫外より
 任官認代トシテ發給軍服着用新標海軍隊
 先着同好ニ於テ奉送可ク之
 三十三年四月三十日

大 印

軍用理
 海軍大臣 寺垣 猪三

人

宗

丙第三。〇。號

来儿廿六日午前七時三十分 御發輦同八時汽車
乘御兵庫縣下、行幸ニ付勅奏任官總代各臺
名通常服着用新稿停車場、御先着同所ニ於
テ奉送候様御達可有之此段及御通知候也

明治三十三年四月二十四日

宮内大儿子晋田中光顯

海軍省山本権兵衛啟

官署第一五五號、三六

副官

参事官

發行
日

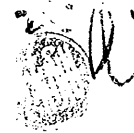
三十三年四月廿五日起案

大臣

次官



局長



主任

主任



海軍大臣濱田清吉親衛人爲行奉書
號三五

海軍

別冊ノ通訳可マラセシ候事及
大御所

三十三四年四月二十五日

大御所御旨 百部

百部

一丁

各段方書ノ在り候事

三部

兵部御旨

一部

大御所御旨

徳島縣知事

和歌山縣知事

水戸方書

兵庫縣下 行幸御發着割

四月二十六日

午前七時三十分

御發輦

(新橋停車場御休憩)

同 八時

新橋御發車

午後六時二十分

名古屋御着車

御泊

名古屋離宮

同 二十七日

午前七時五十分

名古屋離宮御出門

同 八時三十分

名古屋御發車

午後三時三十八分

舞子御着車

御泊

有栖川宮別邸

海軍大演習

御親閲ノ爲 行幸御次第書

(明治三十三年)

一 御發着割豫定左ノ如シ

第一日(四月二十六日) 東京 御發 名古屋 御泊

第二日(四月二十七日) 名古屋 御發 午後三時三十八分舞子御着 御泊

第三日(四月二十八日) 午前八時三十分 御召艦淺間ニ 乘御同九時 御召艦供奉艦艇

拔錨午後一時三十分紀伊水道ニ於テ演習 御親閲便宜黑江灣

ニ 御着艦内 御泊

第四日(四月二十九日) 黑江灣 御發供奉艦ノ艦砲射撃 天覽便宜明石沖ニ 御着

御上陸 御泊

第五日(四月三十日) 午前八時 御召艦淺間ニ 乘御直ニ 御發同十時神戸沖 御着同

所ニ於テ觀艦式 御舉行終テ午後四時神戸 御發明石沖 御

着 御上陸 御泊

第六日(五月一日) 午前 時 分舞子停車場 御發

第七日(五月二日) 新橋 御着

二 御召艦供奉艦艇及觀艦式ニ參列スル艦艇左ノ如シ又同式場ニ於ケル豫定錨位ハ別圖ノ如シ

御召艦 淺間

供奉艦 明石、宮古、八重山

供奉水雷艇

陽炎

軍艦

敷島、八島、富士、常磐、鎮遠、扶桑、松島、嚴島、橋立、笠置、千歳、高砂、吉野、高千穂、秋津洲、和泉、千代田、龍田、豊橋

水雷艇

雷、電、曙、東雲、叢雲、夕霧、不知火、隼、福龍、小鷹、二十一號、二十四號、二十五號、二十九號、三十號、三十一號、三十二號、三十三號、三十四號、三十五號、三十六號、三十七號、三十八號、三十九號、四十號、四十一號、四十二號、四十三號、四十四號、四十五號、四十六號、四十七號、四十八號、四十九號、五十號、五十一號、五十二號、五十三號、五十四號、五十五號、五十六號、五十七號、五十八號、五十九號、六十號、六十一號、六十二號、六十三號、六十四號、六十五號、六十六號、六十七號、六十八號、六十九號、七十號、七十一號、七十二號、七十三號、七十四號、七十五號、七十六號、七十七號、七十八號、七十九號、八十號、八十一號、八十二號、八十三號、八十四號、八十五號、八十六號、八十七號、八十八號、八十九號、九十號、九十一號、九十二號、九十三號、九十四號、九十五號、九十六號、九十七號、九十八號、九十九號、一百號

三 淺間及供奉艦艇ハ第二日(二十七日)午前九時迄ニ明石沖ニ回航ス此日舞子 御着

四 舞子停車場ニ 御着ノトキ同停車場ニ奉迎スル者左ノ如シ

一 所在將官、同相當官、審判官、艦長及艇隊司令

二 海軍儀仗隊一個大隊(二個中隊)及軍樂隊一隊

滿飾

五 舞子停車場ニ 御着ノトキ所在諸艦ハ淺間ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ夜電燈^{滿飾}ヲ行フ

六 舞子ニ於テ陸上 御滞在ノ間ハ儀仗衛兵一個小隊ヲ 行在所ニ差出ス

七 第三日(二十八日)午前八時三十分淺間ニ 乘御ノトキ淺間艦長ハ在艦、其他ノ所在將官、同

相當官、艦長ハ乘艇ノ儘棧橋附近ニ、統監ハ 行在所ニ奉迎シ所在諸艦ハ淺間ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ又淺間ニ於テハ海軍敬禮式第六十條、所在艦艇ハ同第六十二條ノ敬禮ヲ行フ

同九時明石沖 御發午後一時三十分紀伊水道 御着演習 御親閱便宜黑江灣ニ 御着艦内御泊

八 第四日(二十九日)早朝各艦艇黑江灣ニ集合午前九時 御召艦ニ統監以下演習職員(審判官、同陪從及統監附)將官、同相當官、參謀長、艦長、水雷艇隊司令ヲ召サセラレ拜謁仰付ケラレ終テ 勅語ヲ賜フ

九 右終テ 御召艦供奉艦艇ノ外諸艦艇拔錨神戸沖ニ回航觀艦式豫定錨位ニ碇泊ス(別圖參照)
 十 同日便宜黑江灣 御發供奉艦ノ艦砲射撃 天覽終テ明石沖ニ 御着舞子ニ 御上陸
 同日夜明石沖所在ノ艦艇電燈艦飾ヲナス

十一 同日淺間ヨリ 御上陸ノトキ統監ハ 行在所マテ奉送シ淺間ニ於テハ海軍敬禮式第六十一條、所在諸艦ハ同第六十二條ノ敬禮ヲ行フ

十二 第五日(三十日)神戸、明石及附近在泊ノ諸艦滿艦飾ヲ行フ驅逐艇モ特ニ之ヲ行フ

十三 同日午前八時淺間ニ 乘御ノトキ敬禮等ハ第十一項ニ準ス

十四 同日午前八時三十分明石沖 御發同十時神戸沖 御着

此ノ時敷島ニ倣ヒ 御召艦供奉艦ノ外所在諸艦(軍艦明石ヲ含ム)皇禮砲ヲ行ヒ海軍敬禮式第六十二條ノ敬禮ヲ行フ

常備艦隊司令長官奉伺

八重山、宮古、陽炎ハ便宜豫定錨位ニ碇泊ス(別圖參照)

御召艦及軍艦明石ハ豫定通跡ノ通り通航諸艦艇 御巡閲終テ豫定錨位ニ碇泊ス(別圖参照)
 第一列諸艦ハ 御召艦ノ其列ノ南側、第二列諸艦水雷艇ハ第二列ノ北側最近距離 通御ノ
 トキ海軍敬禮式第六十二條ノ敬禮ヲ行フ

十五 御召艦淺間ヨリ敷島ニ 臨御

此ノ時淺間及敷島ニ於テハ海軍敬禮式第六十條第一第二第三項ニ準シ敬禮ヲ行フ
 正午敷島ニ於テ本邦駐劄外國公使館附武官、所在外國海軍司令長官、司令官、艦長ヲ召サセ
 ラレ拜謁ヲ賜フ但シ右諸官ハ敷島ニ 臨御ノ後同艦ニ來乘スルモノトス

十六 右終テ 御前(敷島甲板上)ニ於テ左ノ諸員ニ酒肴ヲ賜フ

一 統監以下演習職員

二 演習ニ參與シタル所在上長官以上ノ諸官

三 陪觀者

同日午後三時敷島ヨリ 御召艦淺間ニ 臨御(此時敷島及淺間ニ於ケル敬禮ハ第十五項ニ同シ)

同日午後四時神戸沖 御發

此ノ時敷島ニ倣ヒ 御召艦供奉艦ノ外所在諸艦皇禮砲ヲ行ヒ海軍敬禮式第六十二條ノ敬禮
 ナ行フ

明石沖 御着舞子ニ 御上陸(行在所ニ於ケル儀仗衛兵ハ第六項ニ同シ)

同日夜明石沖所在ノ諸艦艇ハ電燈艦飾ヲナス

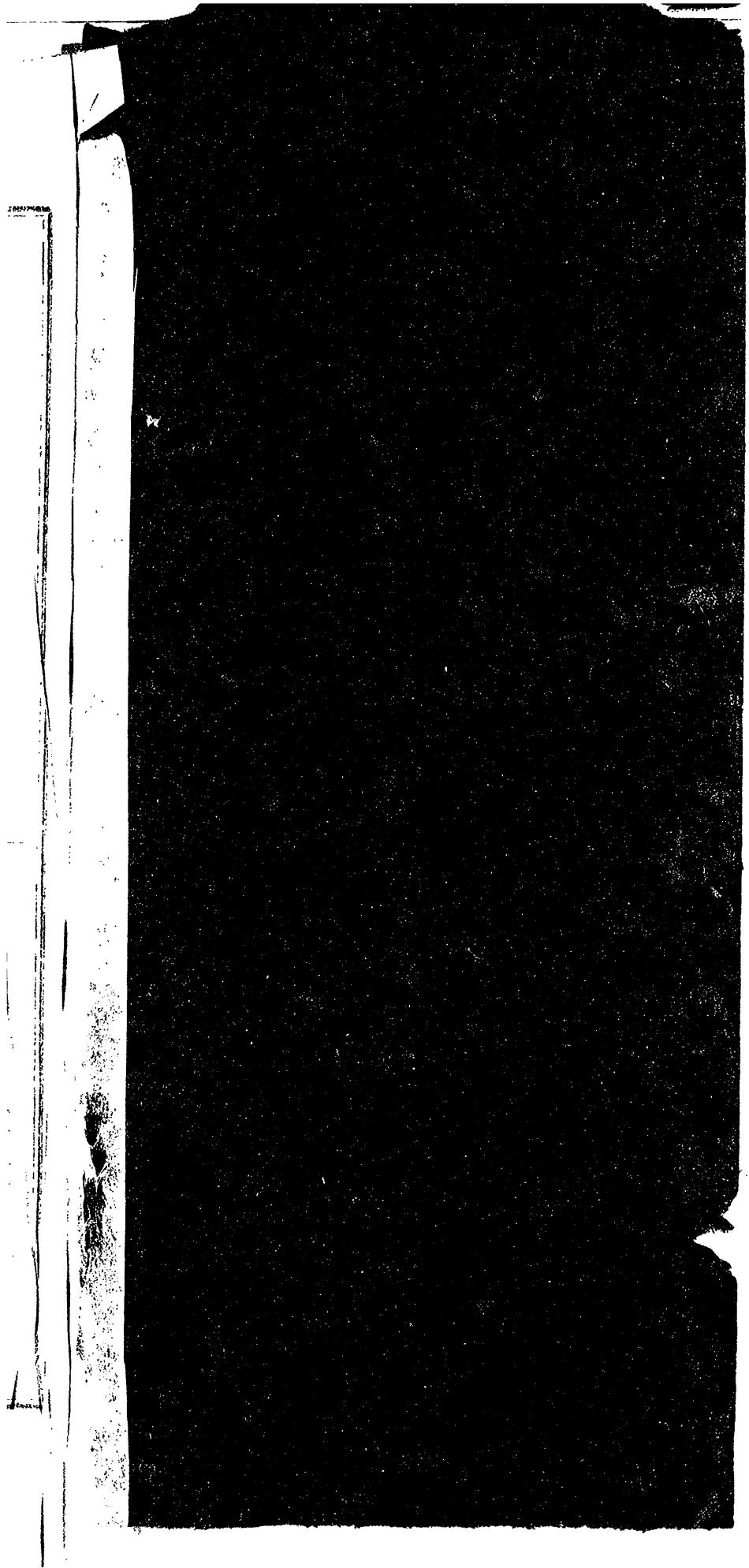
- 十七 同日淺間ヨリ 還御ノトキ統監ハ 行在所迄奉送シ淺間ニ倣ヒ所在諸艦ハ皇禮砲ヲ行フ
 又淺間ニ於テハ海軍敬禮式第六十一條、所在諸艦ハ同第六十二條ノ敬禮ヲ行フ
- 十八 第六日(五月一日)神戸、明石及附近在泊ノ諸艦ハ滿艦飾ヲ行フ但シ驅逐艇モ特ニ之ヲ行フ
- 十九 同日 還幸舞子停車場 御發車ノトキノ奉送及禮砲ハ奉迎ノ場合(第四項及第五項)ニ準
 ス
- 二十 同日神戸 通御ノトキ所在諸艦ハ敷島ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ
- 二十一 還幸後統監ハ便宜大演習終結ヲ令ス
- 二十二 服裝ハ通常軍服長劔帶勳章トス但シ職務上必要アルモノハ他ノ服裝ヲ用フルコトヲ得
- 二十三 右各項ノ外細目ハ統監便宜之ヲ定メ處分ス

明治三十三年四月三十日

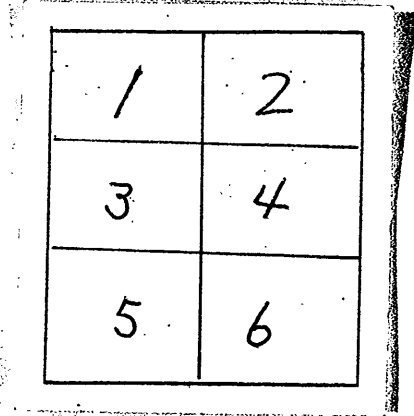
觀艦式參列艦船錨位豫定表

御召艦及供奉艦	第一列		第二列		第三列		第四列	
	番號	錨位	番號	錨位	番號	錨位	番號	錨位
淺間	1	全	敷島	11	軍艦	豐橋	30	軍艦
明石	2	全	八島	12	全	雷	31	水雷艇驅逐艇
宮古	3	全	富士	13	全	電	32	全
八重山	4	全	常磐	14	全	曙	33	全
水雷艇驅逐艇 陽炎	5		鎮遠	15	全	隼	34	水雷艇
	71		扶桑	16	全	福龍	35	全
	72		松島	17	全	第二十四號	36	全
	73		嚴島	18	全	第二十九號	37	全
	74		橋立	19	全	第三十一號	38	全
				21		第三十三號	39	全
				22		第三十五號	40	全
				23		第十二號	41	全
				24		第十七號	42	全
				25			43	
				26			44	
				27			45	
				28			46	
				29			47	
				30			48	
				31			49	
				32			50	
				33			51	
				34			52	
				35			53	
				36			54	
				37			55	水雷艇 小鷹
				38			56	全
				39			57	全
				40			58	全
				41			59	全
				42			60	全
				43			61	全
				44			62	全
				45			63	全
				46			64	
				47			65	
				48			66	
				49			67	
				50			68	
				51			69	
				52			70	
				53			71	
				54			72	
				55			73	
				56			74	
				57			75	
				58			76	
				59			77	
				60			78	
				61			79	
				62			80	
				63			81	
				64			82	
				65			83	
				66			84	
				67			85	
				68			86	
				69			87	
				70			88	
				71			89	
				72			90	
				73			91	
				74			92	
				75			93	
				76			94	
				77			95	
				78			96	
				79			97	
				80			98	
				81			99	
				82			100	

備 考
 錨位ハ別圖ノ如シ
 別圖中6789ノ四浮標ハ觀艦式場ノ外界角點ヲ表ス
 71乃至74ノ錨位ハ本表ニ掲クル艦船ノ外臨時觀艦式ニ參列セシムヘキ艦船アリタルトキ之ニ充



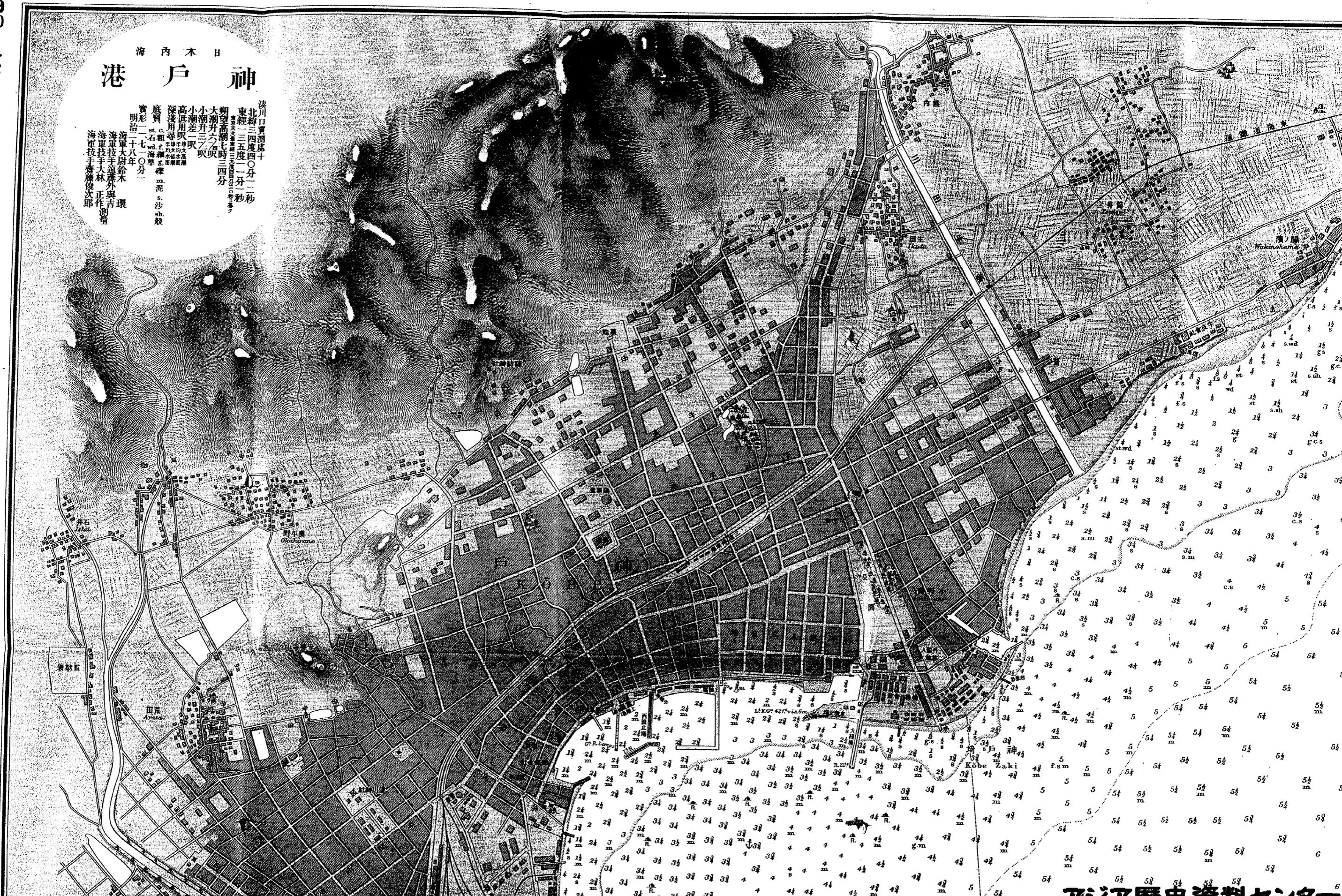
分割撮影ターゲット

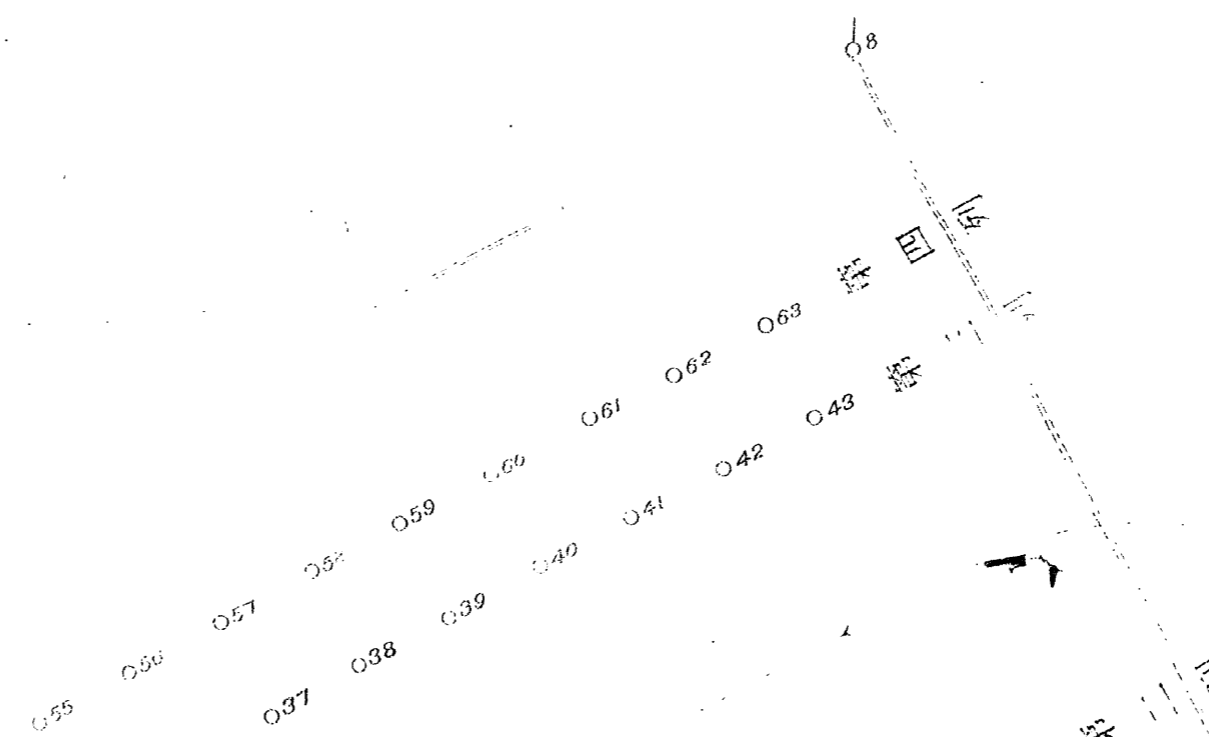
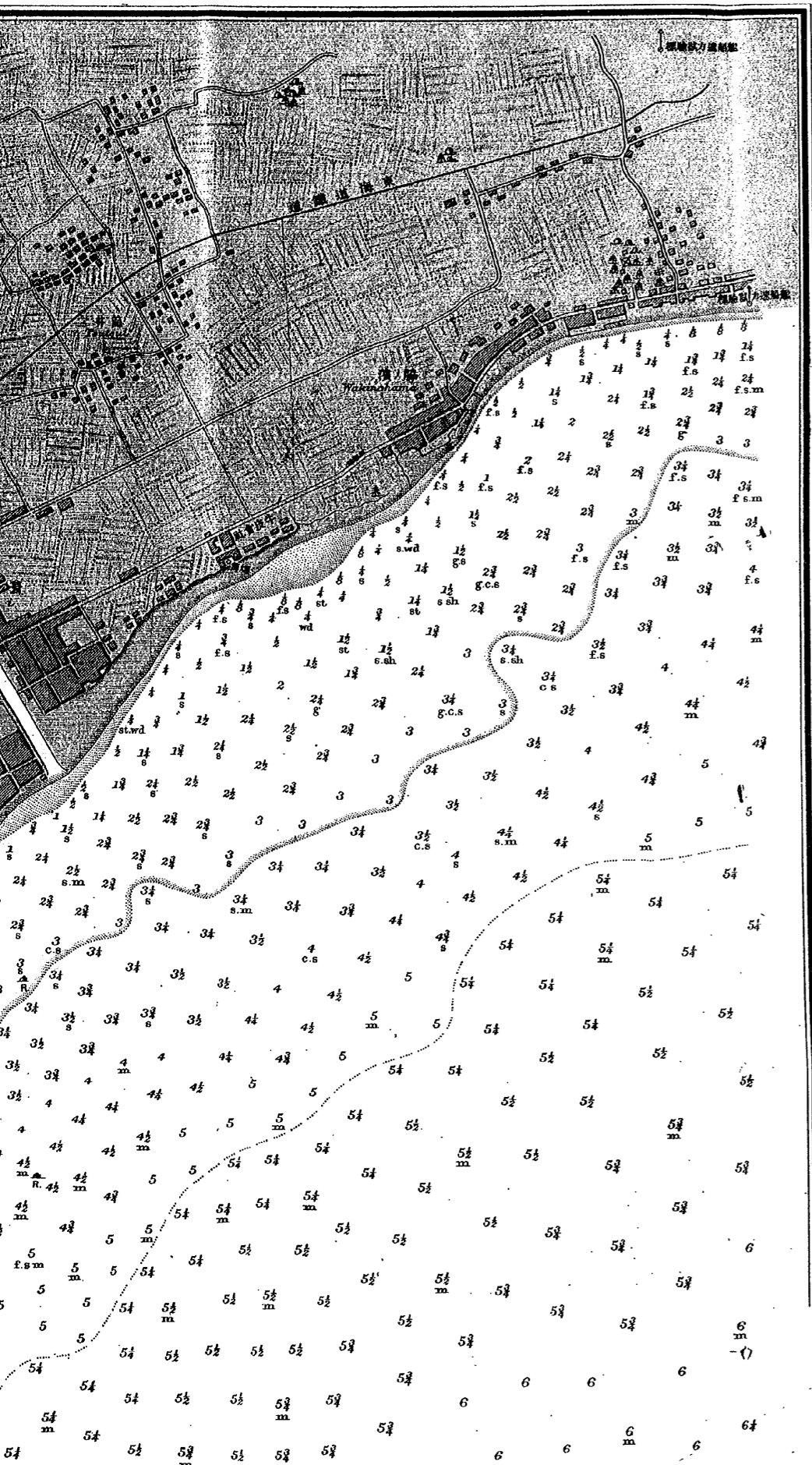
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0917
0918
0919
0920
0921
0922

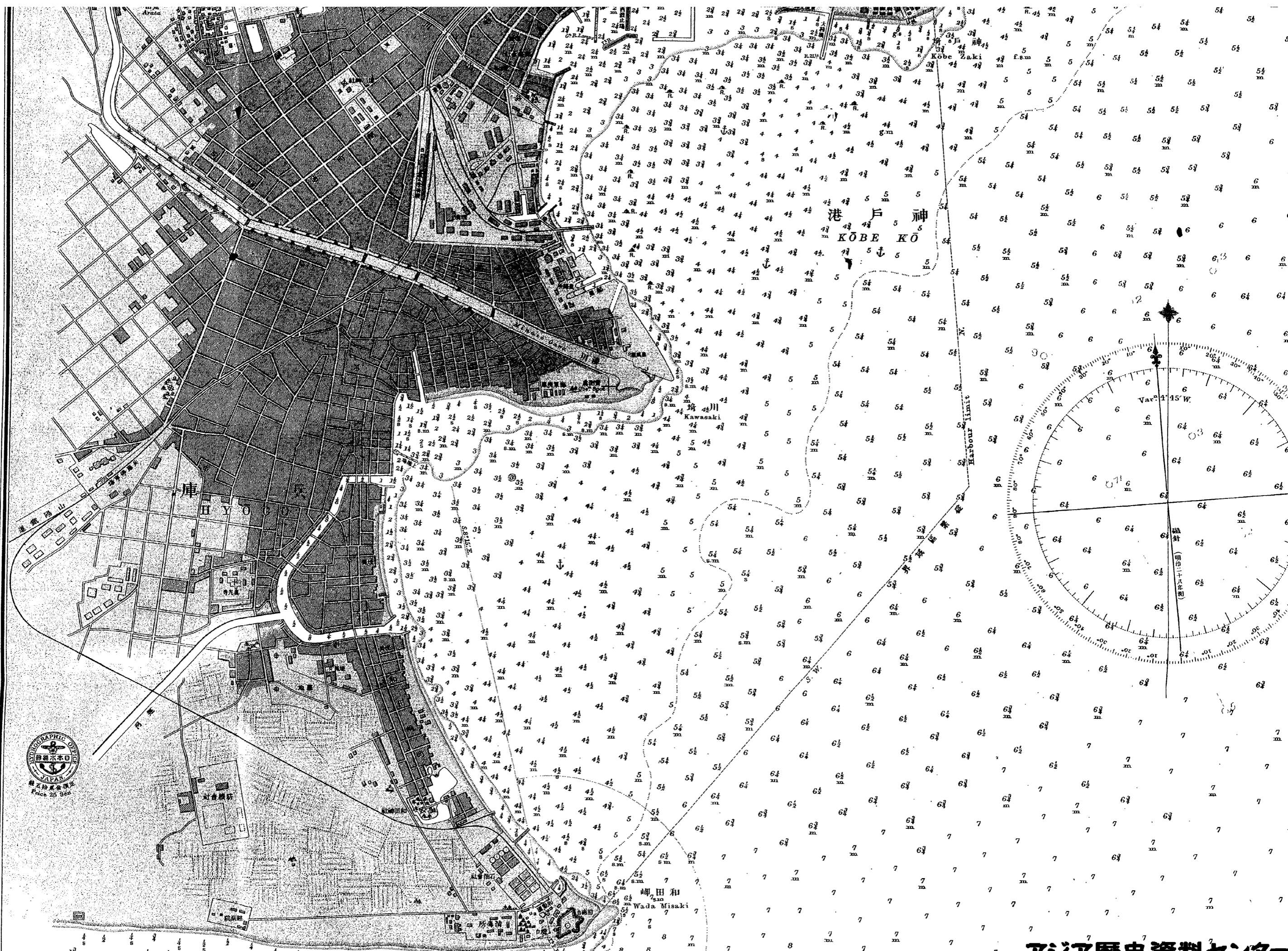
日本内海
神戶港

北緯三十四度四分二秒
東經一三五度一分一秒
小潮升三呎
大潮升六呎
高低用吹
深淺用吹
底質 砂 泥 礫 沙 殼
實形 二七〇分一
明治二十八年
海軍大尉鈴木
海軍技手遠藤外與吉
海軍技手大林 正作
海軍技手森藤俊次郎

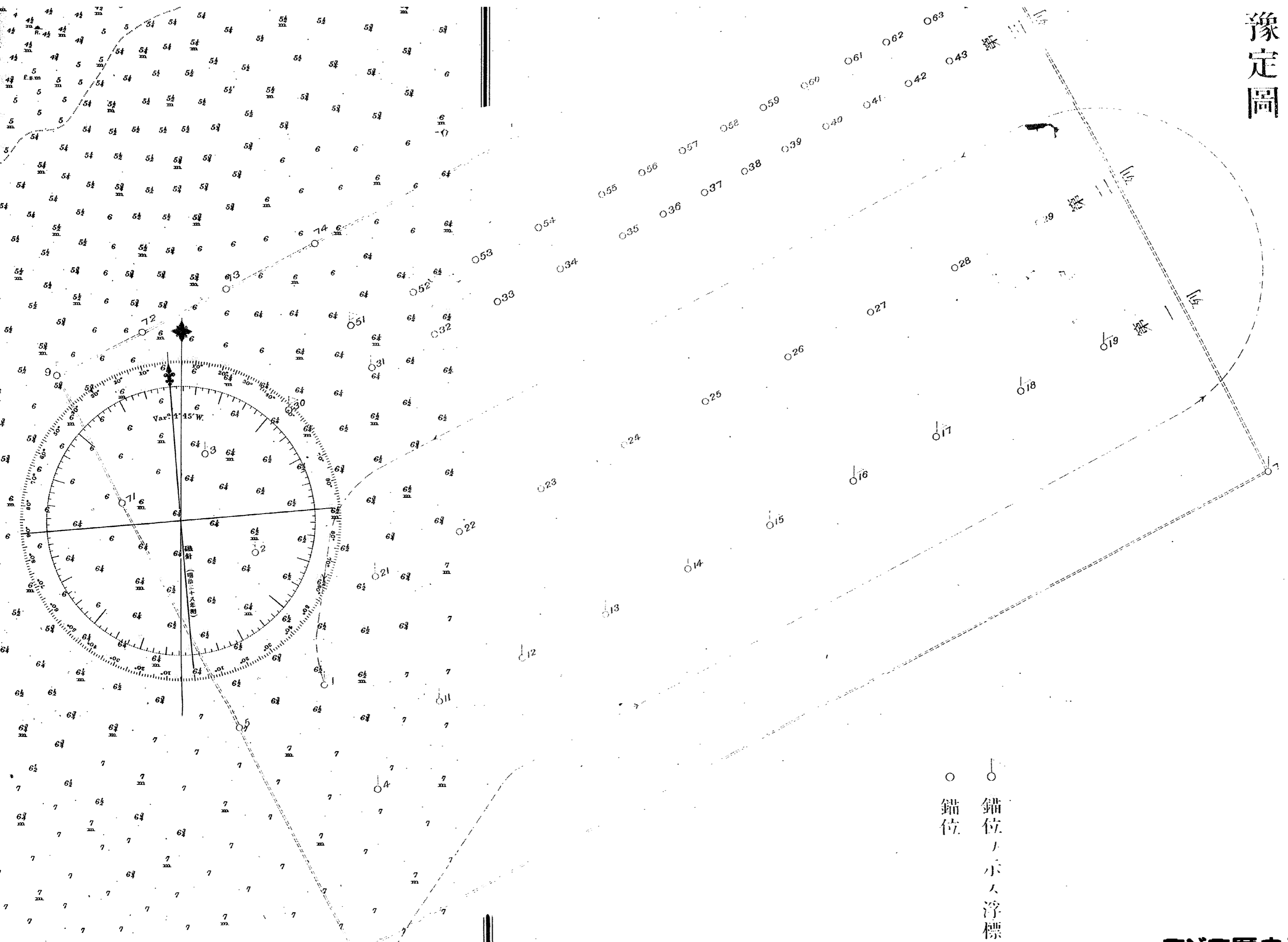




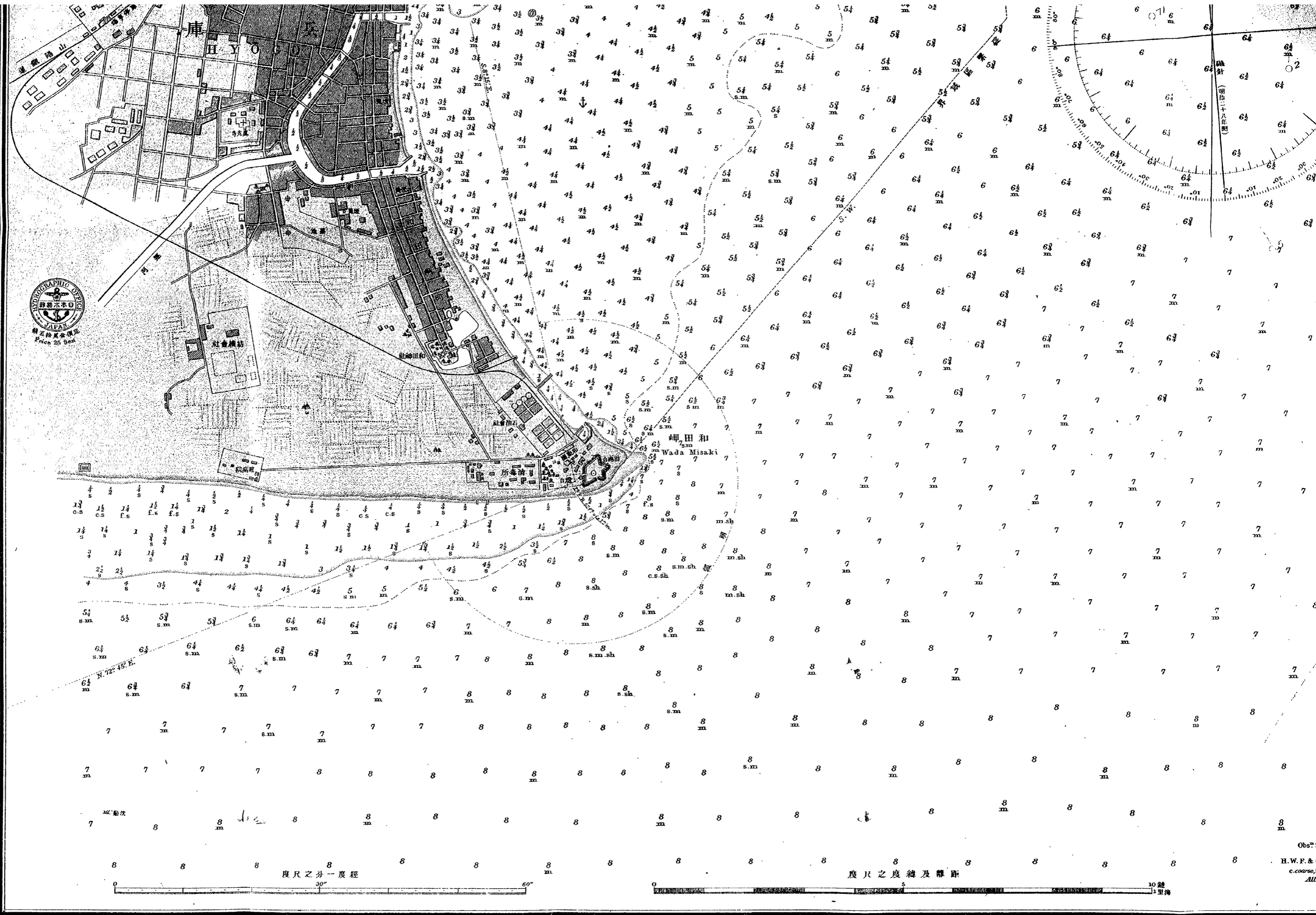
觀艦式參列艦船錨位豫定圖



豫定圖



○ 錨位
 ○ 錨位ヲ示ス浮標



明治二十九年一月廿二日水路部三於子刊行
水路部長肝付兼行

第百號

Vol. 68. XII. 96. I. 99. VII. 99.

Tokyo. Published at the Hydrographic office, 22nd January 29th Year of Meiji, (1896) under the Superintendence of Capt^l K. Kimotski, I. N. Hydrographer.

社団法人海軍省日本海軍省第一海軍省海軍省所管 海軍省 海軍省

内事 卷六 一九八號

今般 行章、中 供奉負中制服着用セハル者
供奉徽章附著候同乘艦差支無之様豫、其
筋、御訓示置相成度右徽章相添比般及
御照會候也

明治三十三年四月廿日

宮内書記官

海軍省副官
拾五個原

海軍省副官

海軍省副官

中

右ノ通中候 別紙表上届此般及古通候
了此表計正ノ旨也

海軍省副官

0923

小松寛 別名

殿下廿八日午前八時神居

① 八重山之御集配遊ハ廿八日孫言上

セウレタシ

次中宛

(次中宛より午前五時前十一時宛)

小松寛ハ神居ハ八重山ニ御集
配遊ハ廿八日午前八時神居

訳

小松元帥官及伏見官ノ御意航ハ
山ニテハ船ノ御泊リハ敷島ト
致シタシ何レヨリ御意航アラセラル
旨ナルヤ

四月廿四日

平定部次長

高橋次長

0928

局 着		局 發		報 局		人 信 冊	
甲	日	時	分	日	時	分	冊
		五		七	七		イ ト カ シ
取受 報 時				第 カ シ シ		報	
ハヨシマゴコ				定指		着 第 三 十	
ツウタリニジヨ				日本		日本	
ナカハルユビツ				政府		電	
ルイニウフケ				電		報	
ヤアツキ4カレ				報		送	
クラレヨビス				送		達	
トモユルキ				紙		紙	
リトノヤ				事		記	
ルゴイヨエ				記			
ルビタトヤ							
						人 信 冊	

筋

電 川口宮内少官

海軍少官

皇族ノ侍従

昨日小松宮伏見宮兩殿下

ニ大演習陪者ヲ侍下ノ赴

ルカ演習地ニ於テハ兩殿下トモ

白玉襖ノ侍資格ニ擬スト

スレモ於テハ侍資格ニ擬スト

0860

局		着		局		發	
印	附	原受 振信	付受 時	付受 時	第	号	八信發
		振	九時 五分	九時 五分	五	八	サイトウシカシ 小松元師 亥際下ハニ部又ハ白王後 孰レノ由 拾九ヤ 亥 白王後トカレハ 供養能ハルハ 筆出ハ
<p>友市乗船 申日本白王後 徳頼 善為 揚 三テ 可 成 琴</p>						<p>ヤ ク ト キ ラ カ カ シ シ カ ル ベ キ ウ カ ン カ ウ ス ハ コ ウ ゾ ク ト ス レ バ グ ゴ モ カ ン シ カ ク ト ス ル ヤ マ ハ ゴ モ コ ウ ハ コ ウ ゾ ク ト ス レ バ グ ゴ モ カ ン シ カ</p>	



三十一日 栞

小松定別巻

次巻

殿下ノ御筆始地ノ神戶トシ二十八

日午前十時御筆始地ノ神戶トシ二十八

其是日ノ御筆始地ノ神戶トシ二十八

管領ニテ御筆始地ノ神戶トシ二十八

幕子ノ御筆始地ノ神戶トシ二十八

改存ノ御筆始地ノ神戶トシ二十八



次書宛

次書宛

小松伏見兩殿下、皇族ノ侍宿
 格ニ侍際覽テ、御遊ニ付テ
 先刻、直子御宿ニ、井子ニテ、兩
 殿下共、侍見、御遊、乘ノコト
 改ム

三十三年四月二十五日十二時發行



栢

坂口より 辛酉の年九月の時

一四七三の怪者小足別ニヤ

此の逢アル

聚室場所ある者ト記ルモ他

ニ冊

五ノ巻ハ末 (二十五の年八月十五の巻)

芸 各々ノ歌ヲケヅル

二五ノ巻ハサレタリ

0934

紙 達 送 報



局 取受 扱者	著 信受 年 月 日 時 分	局 付受 午 時 分	發 第 一 〇 三 號		報 局 報 報	信 人 名 所	
ル	午後 九時 五分	午後 十時 十分	月 九 日		報	テ ー ラ カ リ	
			日		番 號	セ イ	
カ ト ク ノ モ ハ ク ル モ タ シ カ					第 一 〇 三 號	信 人 名 所	
ガ ル モ タ シ カ					事 記	意	
カ ト ク ノ モ ハ ク ル モ タ シ カ					印 附 日	ち に 之 を 配 達 し た る 電 信 局 所 に 返 戻 す へ ハ シ テ 其 受 取 ル 本 人 へ 直 送 し 又 は 手 渡 す へ ら す	

刷印局刷印月八年二十三治朝





栞

(三平の万年前八時十五分)

山口縣知事宛

大臣

伊豆侯爵之傳(了)夕二八日以後

大演習及三十日ノ看罷式ニ候

爵^考及書ヲ望ム

福岡縣知事宛

大臣

井上伯爵之傳(了)夕

0936 2899

電報送達



伊藤君侯々
 又明日ハ毎
 抱ナリカ又明日ハ
 四月廿四日
 門司仙石

發		信名人所	
第 三 號	局 報		
號	定指		
		番著 號信	意
		第	<small> 之に之を配達したる電信局所に返戻すへ一決して其 本人へ直送又は手渡すへあらず </small>
		號	
		事	
		印附日	

刷印局刷印月八年二十三治明

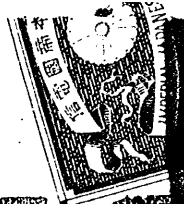


(Matsuda K. 20-10-15)

結六

4860 9860

紙 達 送 報 電



局 著		局 發		信 人 名 所	
取受者信	信受者	付受者	第 三 號	毛	カ
ケ	七	カ	月	局	報
時	時	分	日	定指	番著
分	分	字	號		信
カヤイタニイイ 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト 十十イイブニテト				第 號	
				事 記	
				印 附 日	
				所 名 人 信 發	
				意	

Handwritten scribbles in the top right section of the form.

Vertical handwritten note on the right side of the form.

Small vertical text block at the bottom right of the form, possibly a warning or instruction.

刷印局刷印月八年二十三治明





何事院次長

大宴會ニ召サセラルル人負ノ内親配
 式ニ列シタル上長官以上トアルヲ高学致友
 トモ裁可ニナリタリ陪テハ大尉以下ノ高学致
 友ニ要スルは料理英ノ酒樽等並所弁上
 方内者飛込交拂フコトニナリ式場ハ若崎
 ノ前庭等道庭混雜セサレ場所ニ設ケ
 ラレタリ一人前酒ヲ除キ三回位大体ノ
 献主ハ郵便ヲ送ル

甲子年
 次官

6860

局		着		局		標		濟		人信受	
印	格	取受	作受	作受	第	ト	友	報	周	カ	イ
		最	あ	あ	七	ソ	友			グ	ン
		後	十	九	月	ヤ				ダ	イ
		者	時	時	廿					シ	シ
		信	分	分	五					ン	ン
					日						
					號						
日本政										人信發	
府電										アイ	
報送										ケ	
達紙										シ	
定指										ン	
第										ニ	
二										ニ	
號										ニ	
<p>ダイミンソウカンオヨ ビキカンヲヤドハニ ウヲマケヒヤクニ ロウニサダメタリ 大臣ソウカン及貴官庶民 西魚介る春様ニ定メ 二十日 長官事務</p>											

(特印日)

0940



浅井五
神下二
封号
99

供奉徽章照准用下とて壹個及ら回と成
於於個回送方は申越と越印於個
及付送と名付取取五年迄也

下り申す

吉田主税殿



海軍副官

は申す

此等於心者用れを個のり回し又中徽章
八軍艦系組必要と者に於て本派に及
てぬ條に於て必要と者に於ては此
申渡也